

子ども食堂 支援広がる

関東カイリック 荷主が容器提供



埼玉県鴻巣市のNPO法人（特定非営利活動法人）「ここにこmamas」(高橋亜希代表)

橋亜希代表)の「フードパントリー」活動に無償輸送で協力する関東カイリック(田村繁樹社長、埼玉県東松山市)の取り組みが、広がりをみせている。田村純取締役の紹介で、同社の荷主でもある食料容器メーカーのJSPパッケージング(若杉博社長、東京都中央

中央化学からお弁当容器の提供を受ける「ここにこmamas」の高橋代表(左から2人目)と仲野歩副代表(右隣)

区)が7月に、中央化学が8月17日に、それぞれ同NPO法人へ弁当容器を提供した。同NPO法人は地域に根差し、貧困世帯に食料を提供する「フードパントリー」や子ども食堂、栄養相談の受け付けなどに取り組む。夏休み期間は毎週金曜日、子供たちの未来につながる「食」を提供するため、ひとり親世帯への支援として子ども食堂を実施しており、関東カイリックが7月14日に1回目の無償輸送を行っ

た後、16日には270人分の焼肉弁当が提供された。以前は食堂で食事を提供していたが、新型コロナウイルス禍で弁当での提供となり、容器代が掛かるようになっていた。田村氏がこれに着目し、関東カイリックの荷主でもある食料容器メーカーに同NPO法人の取り組みを紹介。2社から協力の申し出があった。JSPパッケージングは7月に弁当容器780食分を提供。中央化学は8月17日に弁当容器1800食分を、中央化学本社で提供した。

17日に提供された容器について、高橋代表は「鴻巣市内の企業からも子ども食堂へのご支援を頂き、とてもうれしい。頂いた1800食分の容器は、市内にあるほかの子ども食堂にも振り分け、たくさんの子供たちに食料を届けたい」と述べた。中央化学は「子ども食堂関係のニーズをよく目にしていて、少しでもお役に立ち、子供たちの未来につながる」と、同NPO法人の取り組みを応援した。

関東カイリックによる「ここにこmamas」の活動への支援は東広島FMのラジオ番組でも紹介されたほか、フェイスブックへの投稿を通じて、ボランティアスタッフの応募、寄付、農業生産者からの食材提供など、更に広がりがつつあるという。(辻本亮平)

2021. 8.27

物流ニッポン 4面